No.167　　腺様嚢胞癌の転移

熊本大学医学部附属病院　病理部　　橋向　圭介

① 症例：５０歳代　女性
② 既往歴：２０１５年に左乳癌、右乳腺腫瘤で両側乳房切除後、ホルモン療法中。同年に左上顎歯肉癌で重粒子線治療。
③ 臨床経過：２０１７年に両側肺に結節を指摘。また頚部リンパ節の腫大を認めたため穿刺吸引細胞診を行った。
④ 材料：左頚部リンパ節穿刺
⑤ 細胞像：結合性の比較的ゆるい上皮細胞集塊が出現しており、核は小型で N/C 比が高く円形～類円形を呈し、細顆粒状の核クロマチンの増量がみられ、核異型や核小体は目立たなかった。また一部ではライトグリーン好性の基底膜様物質や、大小の腔の中に粘液様の球状物質を認めた。
⑥ 組織像：導管上皮および基底細胞様の腫瘍性筋上皮からなる二相性を示す腫瘍細胞が、胞巣状あるいは索状、篩状に増殖しており、真の腺管や基底膜様物質を伴う偽腺管形成がみられた。
⑦ 鑑別点：球状～管状、篩状の細胞集塊で、球状の粘液様物質や、ライトグリーン好性の基底膜様物質（ギムザ染色でメタクロマジーを示す）を認める点。

文献：細胞診断マニュアル　篠原出版新社
細胞診ガイドライン乳腺・皮膚・軟部骨　金原出版
頭頚部・口腔細胞診アトラス　医療科学社